

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

建物概要				外観
建物名称	株式会社フリジポート熊本工場	階数	地上2F	
建設地	熊本県菊池市	構造	S造	
用途地域	指定なし	平均居住人員	0人	
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760時間/年	
建物用途	事務所, 工場,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2015年9月 予定	評価の実施日	2015年1月22日	
敷地面積	22,089 m ²	作成者		
建築面積	4,840 m ²	確認日		
延床面積	7,096 m ²	確認者		

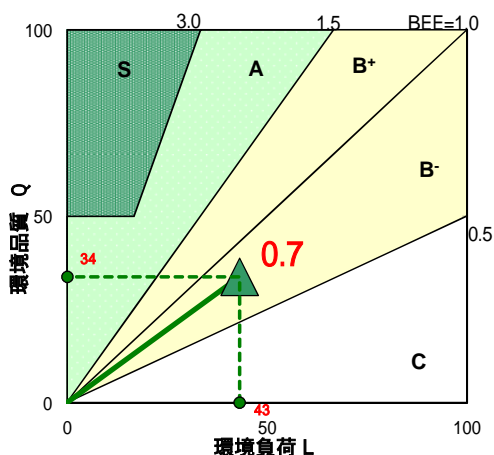
1 CASBEE評価結果

建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



BEE = 0.7

$$\text{BEE (環境効率)} = \frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$$



■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



排出率

88%

2 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価



評価点

73

評価点

熊本県重点評価基準

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

92.9

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

47.5

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

62.5

【重点事項4】 循環型社会の実現

69.7

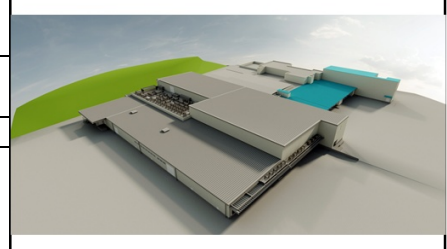
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終る2015年3月までの期間限定で使用できます。
 使用評価マニュアル：CASBEE-熊本(新築版)2010年改訂版Ver.2 (SPVBE対応) 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社フリジポート熊本工場	階数	地上2F
建設地	熊本県菊池市	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	0人
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年9月 予定	評価の実施日	2015年1月22日
敷地面積	22,089 m ²	作成者	
建築面積	4,840 m ²	確認日	
延床面積	7,096 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★☆☆☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.3

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.9

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 評価点 = 73

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 93	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 48
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 63	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 70

重点事項の評価(レーダーチャート)

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補
株式会社フリジポート熊本工場

欄に数値またはコメントを記入

使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPI/BEI対応)

評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei\

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.3
Q1 室内環境			0.33					2.6
1 音環境		2.6	0.15	-	-	-	-	2.6
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	-	-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	-	-	-	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音		1.0	0.20	-	-	-	-	
2 温熱環境		2.6	0.35	-	-	-	-	2.6
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-	-	-	
1 室温		3.0	0.38	-	-	-	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.25	-	-	-	-	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	-	-	
3 光・視環境		1.9	0.25	-	-	-	-	1.9
3.1 昼光利用		1.8	0.30	-	-	-	-	
1 昼光率		1.0	0.60	-	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-	-	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	-	-	
2 昼光制御		3.0	1.00	-	-	-	-	
3 映り込み対策		-	-	-	-	-	-	
3.3 照度		2.0	0.15	-	-	-	-	
3.4 照明制御		1.0	0.25	-	-	-	-	
4 空気質環境		3.5	0.25	-	-	-	-	3.5
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-	-	-	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	-	-	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	-	-	
4.2 換気		3.3	0.30	-	-	-	-	
1 換気量	中央方式 30m ³ /h人以上、建築基準法換気量の1.2倍	4.0	0.33	-	-	-	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-	-	-	
4 給気計画		-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御	建物全体が禁煙 喫煙室なし	5.0	1.00	-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	-	-	2.9
1 機能性		2.9	0.40	-	-	-	-	2.9
1.1 機能性・使いやすさ		2.0	0.40	-	-	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	0.33	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.33	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		1.0	0.33	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	-	-	-	-	
1 広さ感・景観		3.0	0.33	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース	自動販売機の設置	5.0	0.33	-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	0.33	-	-	-	-	
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い仕上げ(内壁、床面、外壁)	5.0	0.50	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.31	-	-	-	-	3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.33	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	厨房ダクト、高湿ダクト系排気ダクトは全てステンレスダクトを採用	5.0	0.08	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管:B、給湯管:C、排水管Bを使用、Eは不使用	5.0	0.15	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	-	-	

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.0	0.19		
1	空調・換気設備		3.0	0.20		
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		
3	電気設備		3.0	0.20		
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		
5	通信・情報設備		3.0	0.20		
3 対応性・更新性			2.9	0.29		2.9
3.1 空間のゆとり			2.8	0.31		
1	階高のゆとり		2.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.1051	4.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31		
3.3 設備の更新性			3.0	0.38		
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		
2	給排水管の更新性		3.0	0.17		
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22		
Q3 室外環境(敷地内)				0.37		1.5
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40		2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30		1.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		1.0	0.50		
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		
LR 建築物の環境負荷低減性						3.2
LR1 エネルギー				0.40		3.8
1 建物の熱負荷抑制		{事務所}BPI=0.68 (旧PAL=59%)	5.0	0.08		5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.26		3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		
3 設備システムの高効率化		{事務所}BEI=0.74 (ERR=31%)	4.8	0.40		4.8
集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)		#VALUE!	4.8			
集合住宅の評価			3.0			
4 効率的運用			3.0	0.26		3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50		
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		
LR2 資源・マテリアル				0.30		2.7
1 水資源保護			3.0	0.15		3.0
1.1 節水			3.0	0.40		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33		
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.63		2.6
2.1	材料使用量の削減	鉄骨の基準強度 440N/mm2以上	4.0	0.07		
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20		
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20		
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24		
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22		3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32		
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68		
1	消火剤					
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		
3	冷媒		3.0	0.50		
LR3 敷地外環境				0.30		2.9
1 地球温暖化への配慮		省エネ設備の導入	3.4	0.33		3.4
2 地域環境への配慮			3.0	0.33		3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25		
1	雨水排水負荷低減					
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		
3	交通負荷抑制		3.0	0.33		
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33		
3 周辺環境への配慮			2.5	0.33		2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		
1	騒音		3.0	0.50		
2	振動					
3	悪臭		3.0	0.50		
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40		
1	風害の抑制		1.0	0.70		
2	砂塵の抑制		3.0			
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		
3.3 光害の抑制			3.7	0.20		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	公害対策ガイドラインの過半を満たし、広告物照明を行わない	4.0	0.70		
2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		

CASBEE® 熊本 《新築》 【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。

食品工場として、衛生管理を徹底した製造環境とし、従業員が働きやすい建物とする。

Q1 室内環境

注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

製造環境における各室の温度条件を満たし、清掃性の高い内装仕上とする

Q2 サービス性能

注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

従業員の働きやすい工場として、休憩室や食堂機能を付帯させる。

Q3 室外環境（敷地内）

注) 「Q3 室外環境（敷地内）」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

緑地を20%以上確保する。

LR1 エネルギー

注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

2階屋根は断熱性能の高い二重折版とし、空調負荷の低減を図る

LR2 資源・マテリアル

注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

有害物質を含まない建材を利用する

LR3 敷地外環境

注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

敷地外周部に緑地を計画し周辺環境に配慮する

その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 株式会社フリジポート熊本工場

評価ソフト: CASBEE-NCb_2010_kmt2011(v3.0)

使用評価マニュアル: CASBEE熊本(新築)2011年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		73.1
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
温室効果ガス排出量削減の推進				92.9	0.40	37.16
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.09			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.09			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.09			
LR1 1	建物の熱負荷抑制	5.0	0.04			
LR1 2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1 3	設備システムの高効率化	4.8	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	4.0	0.10			
LR3 2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
安全安心で暮らしやすい社会の実現				47.5	0.20	9.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	1.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
県の地域資源の有効活用と保全				62.5	0.20	12.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
循環型社会の実現				69.7	0.20	13.94
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.9	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

総合評価結果

$$\text{総合評価点} = (\text{各重点事項の評価点} \times \text{各重点事項の重み係数}) \text{の総和}$$

重み係数の総和は、「1」であること。

各重点事項(~ の項目)

$$\text{評価点} = (\text{各重点項目のスコア} \times \text{各重点項目の重み係数}) \text{の総和} \times (5/4) \times 20$$

重み係数の総和は、「1」であること。

(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数